

五郎沼通信



第22号 平成30年11月発行

この通信は、五郎沼の桜や周辺環境を守りながら、五郎沼の活用方法や今後のあり方を地域の皆さんと考えるために発行します。
(発行部数:200部)

発行者：「五郎沼の桜を守る会」
事務局 瀬川峰雄
紫波町南日詰字小路口70-1
電話：019-672-2656
FAX：019-601-2686
携帯：090-2270-6771
m-mail：segawa@mineo.jp
Pcmail：info@shiwakankyo.com

五郎沼の紅葉もきれいです

11月に入ってもさほど寒くならない昨今ですが、例年通り今年も多少弱っている桜への施肥と、伐採済みの桜枝の焼却を地元箱清水の史跡五郎沼愛護会(箱崎勝之代表)で行いました。

堤体には例年に比べて草の青緑がまだ残っており、桜の黄、もみじの赤のコントラストがきれいでした。そして、下の写真のように、湖面に映った桜の紅葉もまた、見ごたえがあるなど改めて思いました。

そして、朝夕方になりますと湖面には既に飛来した白鳥



今年も既に飛来した白鳥などの渡り鳥



紅葉と落ち葉と緑草コントラストの中で施肥



駐車場のもみじの紅葉



水面鏡に映る紅葉

が来ておりました。このように、五郎沼の冬には渡り鳥がいるのが当たりまえで、それがまた似合いますね……。

歴史遺産の未来を考える ～歴史遺産はだれのもの? /をいかす～

紫波五郎沼歴史研究会(佐藤観悦代表)では、歴史文化を活かしたまちづくり事業の一環として、赤石・古館公民館を会場に「歴史遺産の未来を考える」をテーマに二回シリーズの歴史講演会を開催しました。考古学・古代史を専門とする盛岡市遺跡の学び館文化財主査の今野公顕(ただあき)氏を講師に、歴史遺産の望ましい保存・

活用の在り方、歴史遺産を活かした個性的な地域づくりの意義やその手法などについて、国指定史跡志波城跡

の発掘調査や保存整備に関わった自らの経験や知見を交えながら具体的に解説されました。

特に、歴史遺産を地域づくりや観光施策などに活かすためには、文化財がもつ本質的な「歴史的価値」を見極め、観光・教育などの資源としての「現代的価値」を高め、歴史遺産が所在する自然環境や周辺環境、歴史遺産の現状などに留意しながら、模倣ではなくその土地の個性を重視した活用が歴史遺産を次世代に継承させることにつながると説いています。

さらに、歴史愛好者だけではなく、子どもから大人まで幅広い世代・立場の人々がそれぞれ興味のある分野や得意な分野に様々な形

で主体的に参加できるように敷居を下げ、活動の門戸を開け、歴史遺産を支える底辺人口を増加させていく取組が重要であると力説しています。

この講演会のレジュメは、五郎沼の活用方策や今後の在り方を検討する際に、一つの方向性を示唆しているものと考えられます。

(紫波五郎沼歴史研究会 大沼信忠)



今野先生



会場の様子(古館公民館)

五郎沼の草花

沼の堤体には桜以外に草花もたくさんあります。今回も箱清水にお住まいの、三田地節子さんより説明を受けご案内します。今回は「実」です。



学名：ツルウメモドキ

▲花期5-6月……名前の由来は、花も実も梅に似ていないが、ツルから伸びた枝や葉の形の付き方から梅の枝に似ているとの事。

▼花期8-10月……名前の由来は1cmの球形の実が雀瓜であるのに対し6cm程の楕円形で大きい事から「カラスの瓜」と名付けられた。また夏に咲く花も美しく捨てがたい。真っ白い花の縁がレース状に裂けて



学名：カラスウリ (別名タマズサ)

繊細な形である。



学名：ガマズミ (別名ソミ)

▲花期5-6月……葉の卵形で毛があり枝先に花序を出し白い花を咲かせる。花には独特な匂いがあり昆虫が蜜を求めて集って来る。花実とは9-10月に真っ赤に熟す。霜が降りる頃には甘みも増して生食が出来る。



学名：ミソバ (別名ウシノヒタイ)

◀花期8-10月……名の由来は、江戸時代「大和木草」など五文献に登する江戸時代に「溝ソバ」の名前は定まっていたとの事。湿った場所に群生し花草姿がソバの花に似ている事から。葉の形は牛の額に良く似ている。



学名：アカマツの実 (別名モツボクリ、マツカサ)

◀花期4-5月……名前の由来は、樹皮が赤褐色で乾燥地や岩山に良く育つ事から。秋には出来たての緑色で美しい松の実が見られる。冬を越すと枯れ色になり地上にこぼれ落ちる。

五郎沼が築堤されたころ・比爪藤原氏の時代 (10)

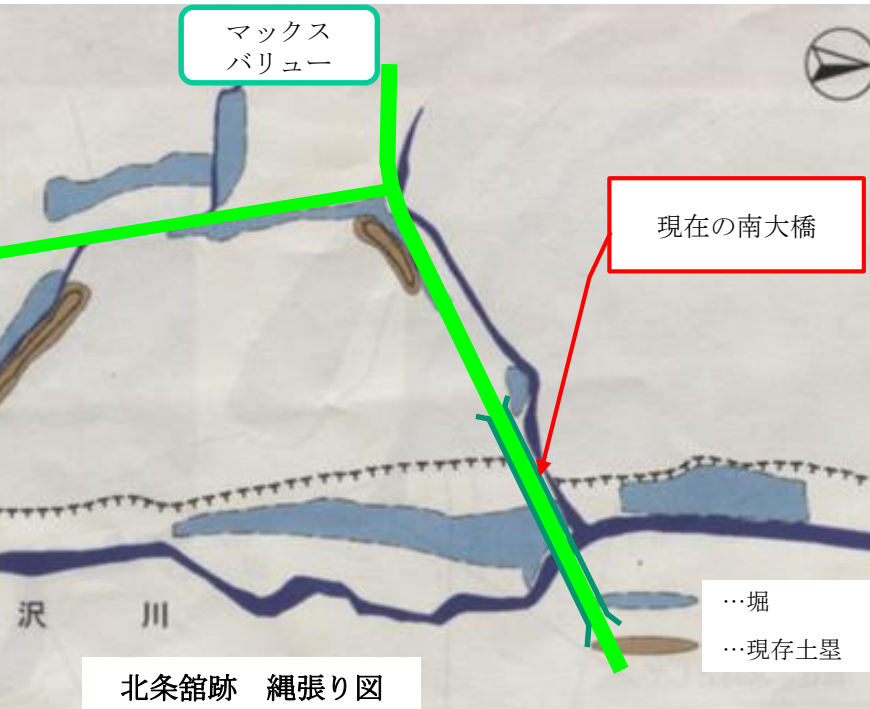
北条館跡発掘調査現場から
在堤防工事の關係で北条館
跡南外郭部分の発掘調査が行
われていました。北条館は戦国
時代に肥爪城といわれていた
場所とされ、豊臣秀吉の奥州
仕置で破却されました。外
堀の存在は地籍図等から推定
されていた縄張り図から予想
されていきました。

しかし、発掘により図の
2ヶ所から想像以上に巨大な
外堀が出現しました。北側の
堀は馬出の郭を想像させるよ
うな二重の堀跡です。南側は
深さが3m以上、はば5m以
上で、下層の岩盤まで掘削さ
れた巨大な堀跡です。内部の
調査は未だ継続中です。す
に現地説明会は終了しました
が、日々新しい発見が出そう
な現場で、目が離せない状況
です。

さらに、これから、現在内
堀と土塁が残る主
郭部分東側の発掘
調査に入る予定で
す。位置的に大銀
遺跡の北側に在り、
樋爪氏時代の館の
可能性もあります。
作業の妨げになら
ない範囲で、ぜひ
実際に見ていただ
きたい遺跡です。
(石幡 信)



北条館跡 外堀



北条館跡 縄張り図

…堀
…現存土塁